

厚生労働省
特別用途食品説明会

臨床現場から見た特別用途食品について
-慢性腎不全に対する低たんぱく質食品の有用性を中心に-

東京医科大学腎臓内科
中尾 俊之

新しい制度における特別用途食品

病者用食品

許可基準型

病者用単一食品

- 低ナトリウム食品
- 低カロリー食品
- 低たんぱく質食品
- 低(無)たんぱく質高カロリー食品
- 高たんぱく質食品
- アレルギー除去食品
- 無乳糖食品

栄養表示基準に基づく栄養強調表示で対応

病者用組合わせ食品

- 減塩食調整用組合わせ食品
- 糖尿病食調整用組合わせ食品
- 肝臓病食調整用組合わせ食品
- 成人肥満症食調整用組合わせ食品

宅配食品栄養指針で対応

個別評価型

新しい制度における特別用途食品 (病者用食品)

低たんぱく質食品

アレルギー除去食品

無乳糖食品

総合栄養食品(濃厚流動食)

新しい制度による特別用途食品

- その食品がないと、生命に危険が及ぶ。
- その食品がないと、健康維持や治療を進める上で特段な困難を生じる。

新しい制度での特別用途食品 「低たんぱく質食品」

[規格]

1. たんぱく質含量は、通常と同種食品の30%以下。
2. エネルギー含量は、通常と同種食品と同程度かそれ以上。
3. ナトリウム、カリウム含量は、通常と同種食品より多くない。

[表示例]

- ・「この食品はたんぱく質の摂取制限を必要とする腎臓病患者に適しています。」
- ・「腎臓病患者用食品」 など

[食品形態]

当面は主食類(米類、パン類、麺類)、粉製品に限られる

慢性腎臓病

(CKD: Chronic Kidney Disease)

- CKDは、末期腎不全となり透析療法が必要となるリスクが高い。
- CKDは、心血管障害と密接に関連し、リスク要因となっている。

慢性腎臓病 (CKD: Chronic Kidney Disease)

糖尿病性腎症

慢性糸球体腎炎

腎硬化症

多発性嚢胞腎

など全てのものを含む

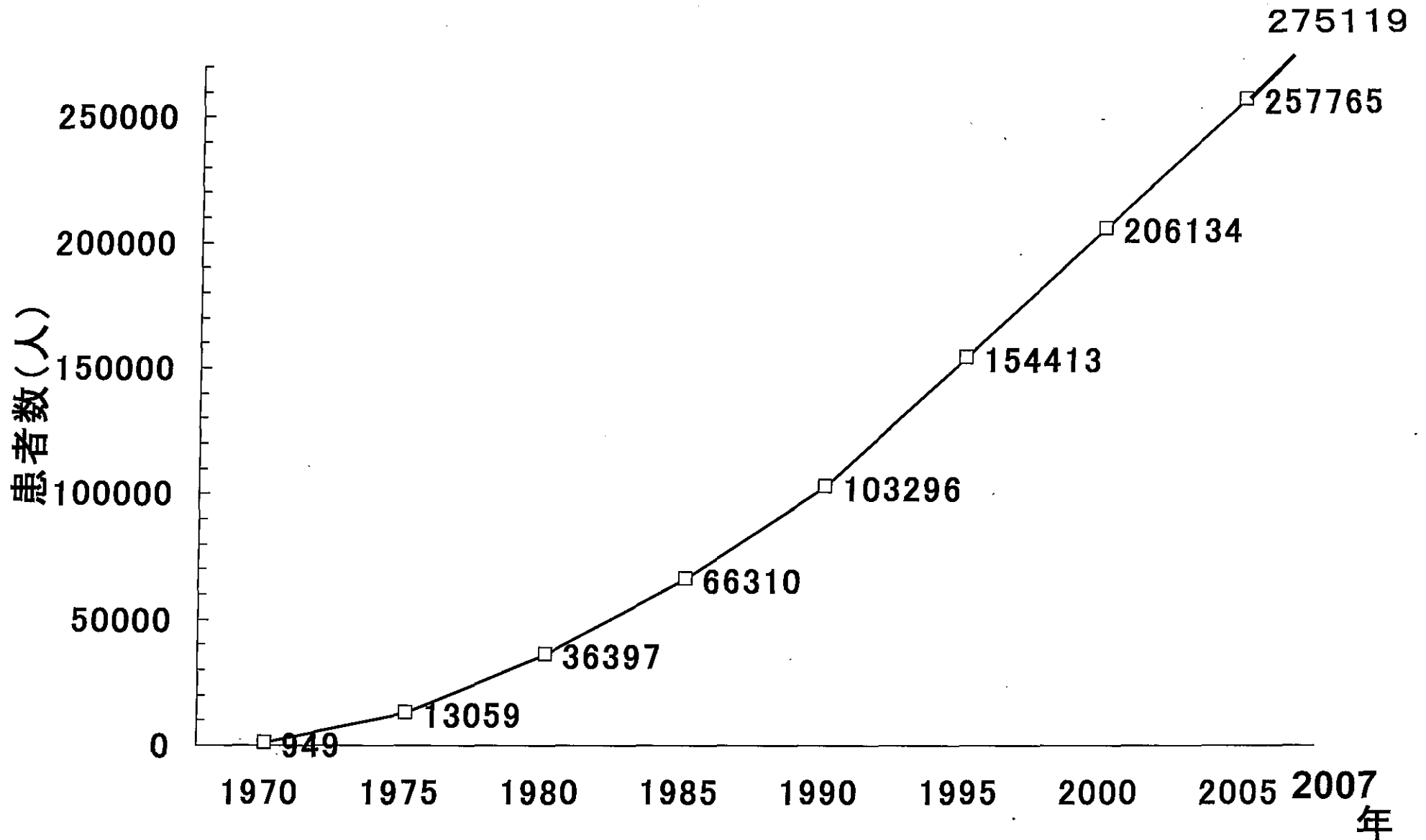
CKDの腎機能による病期分類

病期	病態	GFR (ml/min/1.73m ²)
1	GFR正常あるいは上昇	90以上
2	GFR軽度低下	60 - 89
3	GFR中程度低下	30 - 59
4	GFR高度低下	15 - 29
5	腎不全	15未満または透析

GFR; 糸球体濾過量

わが国における慢性維持透析患者数の増加

(日本透析医学会調査による)



わが国における慢性透析療法の現況 2007年12月31日

(日本透析医学会調査による)

患者数

- 総透析患者数 27万5千119人
- 人口100万対比 2,153.2人
(日本人の464人に一人が透析患者)
- 新規透析導入患者の75歳以上の後期高齢者は全体の31.8%を占める

透析方法

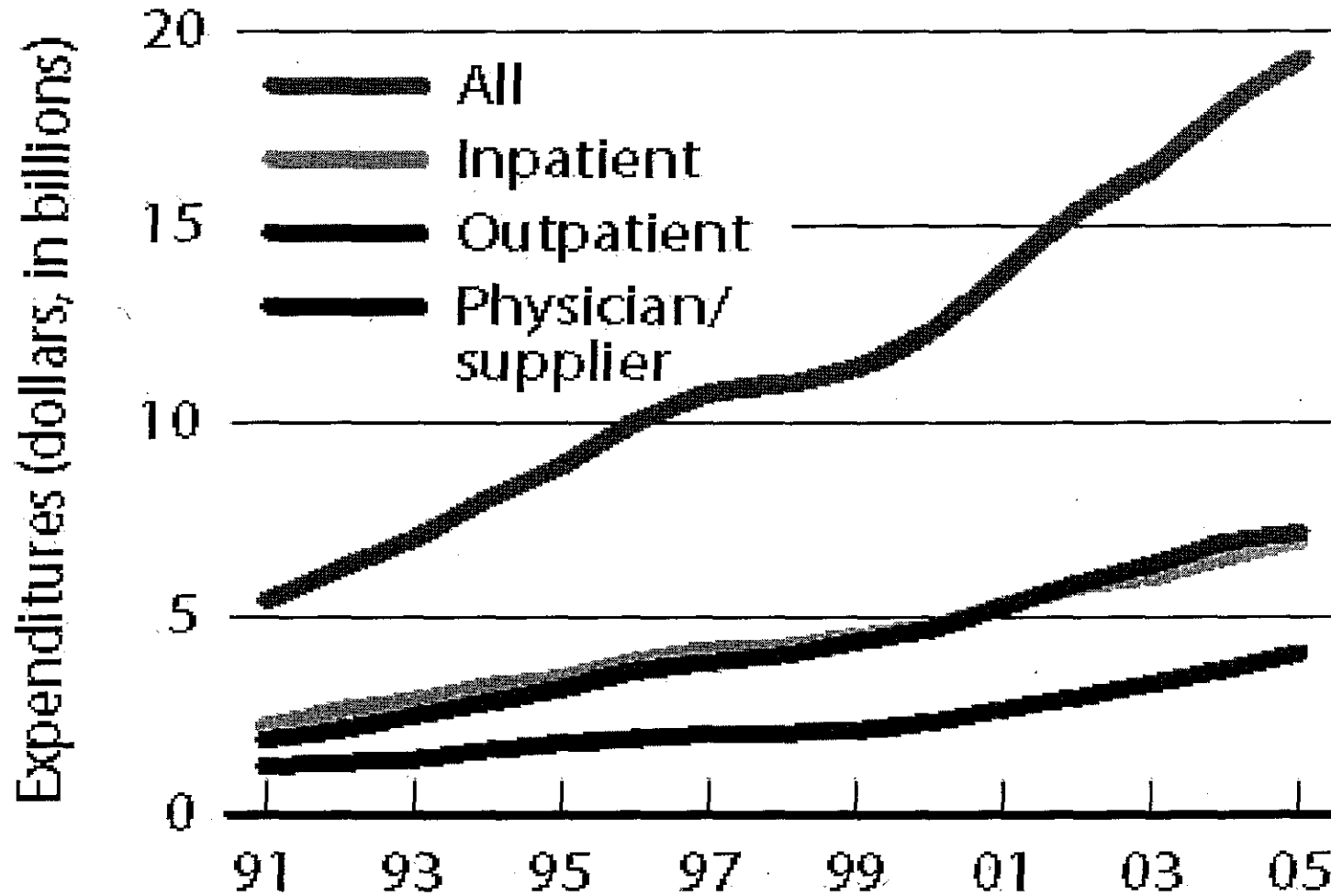
血液透析 96.6 %
腹膜透析 3.4 %

新規透析導入患者の原疾患 (2007年度:日本透析医学会調査)

疾患名	人数	%
1. 糖尿病性腎症	15,75	43.4
2. 慢性糸球体腎炎	8,721	24.0
3. 腎硬化症	3,631	10.0
4. 多発性嚢胞腎	829	2.3
5. 急速進行性腎炎	467	1.3
6. ループス腎炎	311	0.9
7. 慢性腎盂腎炎	266	0.7
8. 移植後再導入	262	0.7
9. 悪性高血圧	252	0.7
10. アミロイド腎	166	0.5

末期腎不全(透析・移植)医療費の増加(米国)

AJKD 45 (SUPPL1): S206,2008



透析療法導入に対する慢性腎不全患者の思い

-血清クレアチニン4.0~6.0 mg/dlの患者でのアンケート調査-

N=50

